

国保の現状と適正受診のお願い

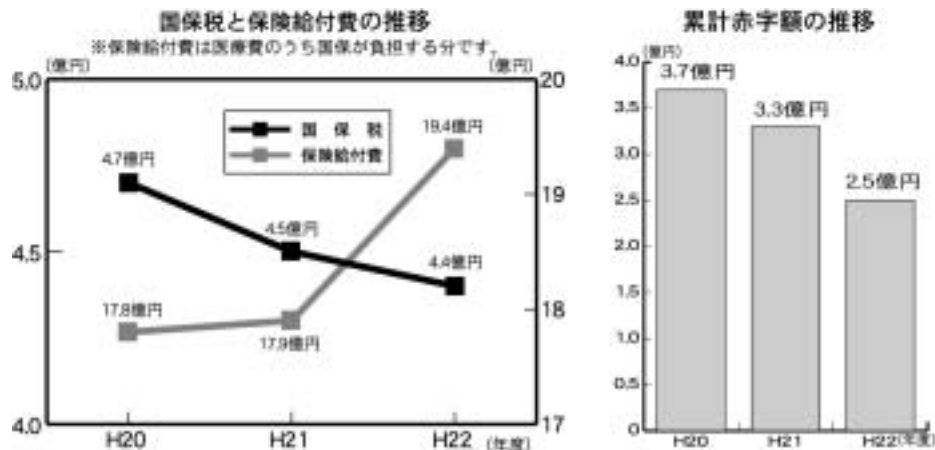
市の国民健康保険は平成22年度末で2億5千万円の赤字を抱えています。その中で、少しでも医療費を節約するために、医療機関の正しいかかりかたについてお知らせします。

国保の現状

市の国保会計の平成22年度の決算は、単年度収支が8千万円の赤字となりました。3年連続で累積赤字額が減少し、前年度の3億3千万円から2億5千万円まで解消されました。

前年度に不足していた交付金が精算されたことや、国からの負担金が本来よりも多く収入されたことが主な要因です。

しかし、皆さんに納めていただく国保税は所得の落ち込みにより年々減少する一方、医療費は年々増加しており、依然として厳しい財政状況が続いています。

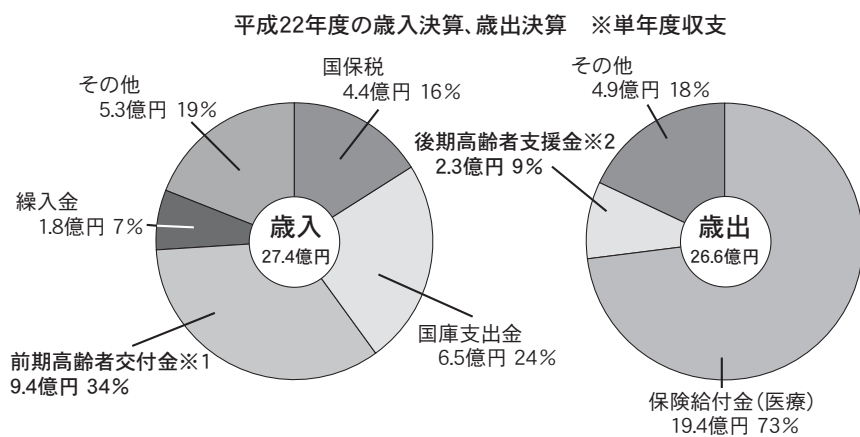


みんなで支える医療制度

現在の医療制度は、65歳以上の方の医療費を社会全体で支える仕組みとなっています。

平成22年度決算の歳入のうち、国保会計を支えている大きな財源が「前期高齢者交付金」※1です。全国の65歳以上75歳未満の方（前期高齢者）の医療費を、国保や、健保協会・共済組合など全国の保険者が前期高齢者の加入割合に応じて負担しています。

市は前期高齢者の加入者数が多くその医療費も高いことから、多額の交付金を受け取っています。また、歳出の中の「後期高齢者支援金」※2は、75歳以上の方の医療費の約4割を現役世代である



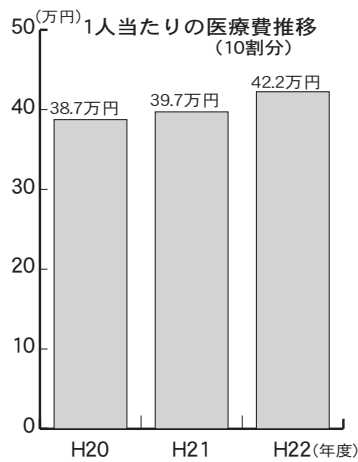
国保や健保協会、共済組合などが支えるもので、加入者数に応じて負担しています。

医療費の状況

平成22年度の1人当たりの医療費は約42万2千円と、前年度と比較して2万5千円（6%）増加しました。

特に入院に係る費用が10%増と高い伸びとなりましたが、これは平成22年度に改定された診療報酬の影響や、血管や脳の疾患、またがんなどの高額な手術が増加したことによるものです。

高額医療となった病気についても、日ごろの生活習慣の改善や定期的に健康診断を受診することで、早期に発見・予防し重症化を防げることから、市では、毎年皆さんに特定健診やがん検診の受診をお願いしています。



実際の医療費は窓口負担の3〜10倍

加入者の皆さんは、かかった医療費のうち、70歳以下の方は3割（未就学2割）、70歳以上は1割（現役並み所得者3割）を医療機関の窓口で負担しています。残りの7割〜9割分は皆さんが納めている国保税や、国や道からの負担金（税金）、そして全国の現役世代の方の保険料を集めた各種交付金などで賄われています。

「少しぐらいなら…」と思っても皆さんの医療費は窓口負担の何倍にも膨れ上がっています。（1割負担ならなんと10倍）

適正受診のお願い

増え続ける医療費を少しでも節約していくために、毎年健康診断を受診して日頃から健康管理を行うとともに、医療機関にかかる際には、適正な受診心がけるようご協力をお願いします。

医療機関の正しいかかりかた

皆さん1人ひとりの医療費は社会全体で支えられています。適正な受診は家計のムダな医療費も減らすことにもなりますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

① 休日・夜間診療はよく考えてから

休日や夜間などの時間外診療は、緊急性の高い患者さんを受け入れるためのものです。割増料金がかかるうえ、お医者さんの負担にもなりますので、平日の時間内に受診することができないのか、もう一度考えてみましょう。

また、夜間にお子さんの急な病気で心配になったら、まず、小児救急電話相談（☎#8000）の利用を考えましょう。小児科の医師や看護師からお子さんの症状に応じた適切な対処の仕方などのアドバイスが受けられます。

○北海道小児救急電話相談（19:00～23:00）

☎011・232・1599 または ☎#8000

※明らかに重大な場合は直ちに119番通報してください。

② 同じ病気で重複受診はやめましょう

複数の医療機関にかけると医療費を増やしてしまうだけでなく、重複する検査や投薬が体に悪影響を与える場合があります。

③ 薬のもらいすぎに注意しましょう

薬が余っているときは、お医者さんや薬剤師さんに相談しましょう。また、「湿布薬」などを必要以上にもらうのはやめましょう。

④ ジェネリック医薬品を活用しましょう

ジェネリック医薬品は新薬と同じ有効成分のある安価な医薬品です。お医者さんや薬剤師さんに相談して、積極的に活用しましょう。